

三次行列と幾何

藤 末 宏

三次行列と二次座標平面上の点との対応関係については、既に、^{人文科学}_{自然科学} 研究 2 一橋大学研究年報〔1960〕に於いて、述べられている。ただあの論文では群と曲線との対応についてであったが、ここでは変数 x, y の間に何等の函数関係をも付けない場合を書いた。

また何も断わらない場合は、 P_1 は行列 X に対応する点であり、 P_2 は行列 X^2 に対応する点であるときめておく。

$X^3 = nX$ なる三次行列と幾何 (I)

〔定理 1〕 行列 $X = \begin{pmatrix} x_1 & x_2 & x_3 \\ x_4 & x_5 & x_6 \\ x_7 & x_8 & x_9 \end{pmatrix}$ が

$$X^3 = nX, X^2 \neq \pm \sqrt{n}X \quad n \in \text{field } K. \text{ (指標は } 2 \text{ でなく, } \frac{1}{n}, \sqrt{n}$$

$$\in K) \quad \frac{1}{n}X^2 \neq E \quad \text{ならば,}$$

$$|X| = 0, x_1 + x_5 + x_9 = 0, \text{ が成立する.}$$

〔証明〕 $e_1 = \frac{1}{2\sqrt{n}}X + \frac{1}{2n}X^2, e_2 = -\frac{1}{2\sqrt{n}}X + \frac{1}{2n}X^2,$

$$e_3 = \frac{1}{n}X^2 \text{ は idempotent で,}$$

$$e_1e_2 = e_2e_1 = 0, e_3 = e_1 + e_2$$

e_3 が単位行列のときは、成立する。 e_3 が単位行列でないならば、 e_1, e_2 の対角元の和は 1 で、各行は比例をする。よって、

$$\begin{aligned} X_1 &= x_1^2 + x_2x_4 + x_3x_7, & X_2 &= x_1x_2 + x_2x_5 + x_3x_6, & Y_1 &= x_4x_1 + x_5x_4 \\ & & & & & + x_6x_7, & Y_2 &= x_4x_2 + x_5^2 + x_6x_8 \end{aligned}$$

$$\frac{\pm \frac{1}{2\sqrt{n}}x_1 + \frac{1}{2n}X_1}{\pm \frac{1}{2\sqrt{n}}x_4 + \frac{1}{2n}Y_1} = \frac{\pm \frac{1}{2\sqrt{n}}x_2 + \frac{1}{2n}X_2}{\pm \frac{1}{2\sqrt{n}}x_5 + \frac{1}{2n}Y_2}$$

(複号同順) ……(1)

また, $E - \frac{1}{n}X^2$ は idempotent 元である. 故に,

$$\frac{1 - \frac{1}{n}X_1}{\frac{1}{n}Y_1} = \frac{\frac{1}{n}X_2}{1 - \frac{1}{n}Y_2}$$

……(2)

(1) と (2) より,

$$x_1 + x_5 + x_9 = 0, \text{ or } x_1 = x_5 = x_9$$

同様に,

$$x_1x_3 + x_2x_6 + x_3x_9 = X_3, \quad x_4x_3 + x_5x_6 + x_6x_9 = Y_3$$

とするならば

$$\frac{\pm \frac{1}{2\sqrt{n}}x_2 + \frac{1}{2n}X_2}{\pm \frac{1}{2\sqrt{n}}x_5 + \frac{1}{2n}Y_2} = \frac{\pm \frac{1}{2\sqrt{n}}x_3 + \frac{1}{2n}X_3}{\pm \frac{1}{2\sqrt{n}}x_6 + \frac{1}{2n}Y_3}$$

(複号同順)

よって, $x_1 + x_5 + x_9 = 0$ or $x_3 = 0$,

[定理 2] $x_1 + x_5 + x_9 = 0, |X| = 0$ ならば,

(i) $X^3 = nX$

(ii)
$$\begin{pmatrix} x_5x_9 - x_6x_8 & x_3x_3 - x_2x_9 & x_2x_6 - x_3x_5 \\ x_6x_7 - x_4x_9 & x_1x_9 - x_3x_7 & x_3x_4 - x_1x_6 \\ x_4x_8 - x_5x_7 & x_2x_7 - x_1x_3 & x_1x_5 - x_2x_4 \end{pmatrix} = X^2 - nE$$
 (E は単位行列)

である. ここに, $n = -x_1x_5 - x_5x_9 - x_9x_1 + x_2x_4 + x_3x_7 + x_6x_8 \dots$ (3)

である.

[証明]

$$X_2Y_1 - X_1Y_2 = (x_1^2 + x_1x_5 + x_5^2 + x_2x_4 + x_3x_7 + x_6x_8)(x_1x_5 - x_2x_4)$$

$$X_3Y_2 - X_2Y_3 = (x_1^2 + x_1x_5 + x_5^2 + x_2x_4 + x_3x_7 + x_6x_8)(x_2x_6 - x_3x_5)$$

が成立する.

[定理 3] $x_1+x_5+x_9=0$, $|X|=0$ のとき, 座標平面に於いて X , X^2 , e_1 , e_2 に対応する点それぞれ P_1, P_2, P_3, P_4 とするならば, $\overline{P_1P_2}$ は定直線 $\overline{P_3P_4}$ の上にあり,

$$(P_1P_2, P_3P_4) = -1$$

である. (以後, 断りなければ $\overline{P_3P_4}$ は座標軸に平行でないとする.)

[証明]

$$\frac{\overline{P_1P_3}}{\overline{P_2P_4}} = \frac{-1}{\sqrt{n}}$$

$$\frac{\overline{P_1P_4}}{\overline{P_2P_4}} = \frac{1}{\sqrt{n}}$$

[定理 4]

$$X = \begin{pmatrix} x_1 & x_2 & x_3 \\ x_4 & x_5 & x_6 \\ x_7 & x_8 & x_9 \end{pmatrix}, \quad X^2 = \begin{pmatrix} X & Y & Z \\ X' & Y' & Z' \\ U & V & W \end{pmatrix}$$

$$|X|=0, \quad x_1+x_5+x_9=0$$

のとき,

$$(i) \quad \frac{YU}{V} - \frac{VZ}{Y} = \frac{X'Z}{Z'} - \frac{UZ'}{X'} = X - W, \quad \frac{VX'}{U} - \frac{UZ'}{X'}$$

$$= \frac{YZ'}{Z} - \frac{VZ}{Y} = Y' - W, \quad \frac{YZ'}{Z} - \frac{X'Z}{Z'} = \frac{VX'}{U}$$

$$- \frac{UY}{V} = Y' - X,$$

$$(ii) \quad UZ'Y = ZX'V$$

$$(iii) \quad X + Y' + W = 2n$$

が成立する.

〔定理 5〕 $|X|=0$, $x_1+x_5+x_9=0$ のとき,

(x, y) と P_2 を結ぶ直線は定点,

$$Q\left(\frac{Y}{V}, \frac{X'}{U}\right)$$

を通る. Q は行列 x^2-nE に対応する点である.

〔定理 6〕 $X^3=nX(n\neq 0)$, $X^2\neq nE$

なるとき, P_1 と $(-x, y)$ を結ぶ直線が定点を通るための条件は,

$$x_3U+x_7V=0, x_8X'+x_4V=0, x_7Y=x_2U, x_2x_6x_7=x_3x_4x_8$$

である. また定点は

$$\left(\frac{x_2}{x_8}, \frac{x_4}{x_7}\right)$$

である.

〔定理 7〕 $X^3=nX(n\neq 0)$, $X^2\neq nE$

なるとき, P_1 と $(x, -y)$ を結ぶ直線が定点を通るための条件は,

$$x_7V+x_8U=0, x_4V=x_8X', x_7Y+x_2U=0, x_2x_6x_7=x_3x_4x_8$$

である. また定点は

$$\left(\frac{x_2}{x_8}, \frac{x_4}{x_7}\right)$$

である.

〔定理 8〕 $X^3=nX(n\neq 0)$, $X^2\neq nE$

なるとき, P_1 と $(-x, -y)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は,

$$x_7V=x_8U, x_7Y'+x_5U=0, x_7Y+x_2U=0, x_2x_6x_7=x_3x_4x_8$$

である.

〔定理 9〕 $X^3=\eta X(\eta\neq 0)$, $X^2\neq \eta E$

なるとき, P_2 と $(-x, y)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は,

$$X=Z=Z'=V=Y=0, Y'=W=n \text{ で, 定点は } \left(\frac{Y'}{U}, \frac{X'}{U}\right)$$

である.

〔定理 10〕 $X^3=nX(n\neq 0)$, $X^2\neq nE$

なるとき, P_2 と $(x_1 - y)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は,

$$W=X=n, X'=U=Z=Y'=Z'=0$$

で、定点は

$$\left(\frac{Y}{V}, \frac{X}{V} \right)$$

である。

〔定理 11〕 $X^3=nX(n \neq 0)$, $X^2 \neq nE$

なるとき、 P_2 と $(-x, -y)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は、

$$Z=Y=W=X'=0, X=Y'=n$$

で、定点は

$$(0, 0)$$

である

〔定理 12〕 $|X|=0$, $x_1+x_5+x_9=0$

のとき

$$\frac{X}{x_1} = \frac{X'}{x_4} = \frac{U}{x_7}, \quad \frac{Y}{x_2} = \frac{Y'}{x_5} = \frac{V}{x_8}, \quad \frac{Z}{x_3} = \frac{Z'}{x_6} = \frac{W}{x_9} \dots\dots(4)$$

ならば、

$(x, -y)$ と P_1 を結ぶ直線は、 Q を通り、角 $\angle P_1QP_2$ の内角、外角は $\overline{QP_3}$, $\overline{QP_4}$ によって二等分される。逆にこのことが成立するのは

(4) なるときである。

〔証明〕 逆の場合は、

$$\begin{aligned} & \left(\frac{Y}{V} - \frac{\sqrt{n} x_2 + Y}{\sqrt{n} x_8 + V} \right) \left(\frac{Y}{V} - \frac{-\sqrt{n} x_2 + Y}{-\sqrt{n} x_8 + V} \right) \\ & + \left(\frac{X'}{U} - \frac{\sqrt{n} x_4 + X'}{\sqrt{n} x_7 + U} \right) \left(\frac{X'}{U} - \frac{-\sqrt{n} x_4 + X'}{-\sqrt{n} x_7 + U} \right) \\ & = \left\{ -\frac{(x_8 Y - x_2 V)^2}{V^2 (\sqrt{n} x_8 + V)^2} - \frac{(x_7 X' - x_4 U^2)}{U^2 (\sqrt{n} x_7 + U)^2} \right\} n \quad (n \neq 0) \end{aligned}$$

よりなる。

〔定理 13〕 $x_1 : x_2 : x_3 \neq x_4 : x_5 : x_6$, $x_4 : x_5 : x_6 \neq x_7 : x_8 : x_9$

$$x_7 : x_8 : x_9 \neq x_1 : x_2 : x_3$$

〔証明〕 等号が成立するものとすれば、 x は idempotent に K の元を掛けたものとなる。

〔定理 14〕 $X^3 = nX$, $\frac{1}{n}X^2 \neq E (n \neq 0)$

なるとき、 $P_2(\xi_2, \eta_2)$ とするならば、 P_1 と $(-\xi_2, 0)$ を結ぶ直線が定点を通るならば、

$$\begin{aligned} \frac{x_3X - x_4Y}{x_5U - x_4V} &= \frac{x_1x_5 - x_2x_4}{U}, = \frac{x_6Y - x_5Z}{x_6U - x_5W} = \frac{Z}{V}, \\ &= \frac{x_4Z - x_6X}{x_4W - x_6U} = \frac{Z}{x_5x_9 - x_6x_3} \quad \dots\dots (5) \end{aligned}$$

である。定点は

$$\left(\frac{(x_5U - x_4V)(x_2X - x_1Y)}{(x_5X - x_4Y)(x_8U - x_7V)}, \frac{x_5U - x_4V}{x_8U - x_7V} \right)$$

である。逆も成立する。

〔証明〕 P_1 と $(-\xi_2, 0)$ を通る直線の方程式は、

$$\begin{aligned} -\frac{x_4x + x_5y + x_6}{x_7x + x_8y + x_9} \xi + \left(\frac{Xx + Yy + Z}{Ux + Vy + W} + \frac{x_1x + x_2y + x_3}{x_7x + x_8y + x_9} \right) \eta \\ = \frac{x_4x + x_5y + x_6}{x_7x + x_8y + x_9} \cdot \frac{Xx + Yy + Z}{Ux + V\eta + W} \end{aligned}$$

である。よって、

$$\begin{aligned} -x_4U\xi + (x_7X + x_1U)\eta &= x_4X \\ -(x_4V + x_5U)\xi + (x_8X + x_7Y + x_2U + x_1V)\eta &= x_4Y + x_5X \\ -x_5V\xi + (x_8Y + x_2V)\eta &= x_5Y \\ -(x_4W + x_6U)\xi + (x_9X + x_7Z + x_1W + x_3U)\eta &= x_4Z + x_6X \\ -(x_5W + x_6V)\xi + (x_4Y + x_8Z + x_3V + x_2W)\eta &= x_5Z + x_6Y \\ -x_6W\xi + (x_9Z + x_3W)\eta &= x_6Z \end{aligned}$$

従って

$$\begin{aligned} W(-x_6\xi + x_3\eta) &= (x_6 - x_9\eta)Z, \quad U(-x_4\xi + x_1\eta) = (x_4 - x_7\eta)X, \\ V(-x_5\xi + x_2\eta) &= (x_5 - x_8\eta)Y \\ (U + V)(-x_4 + x_6)\xi + (x_1 + x_2)\eta &= (X + Y)\{x_4 + x_5 - (x_7 \\ &\quad + x_8)\eta\} \end{aligned}$$

$$(V+W)(-(x_5+x_6)\xi+(x_2+x_3)\eta)=(Y+Z)\{x_5+x_6-(x_8+x_9)\eta\}$$

$$(U+V)\{-(x_4+x_6)\xi+(x_1+x_3)\eta\}=(X+Z)\{x_4+x_6-(x_7+x_9)\eta\}$$

∴ $U \neq 0$ であるから,

$$\begin{aligned} \frac{X}{-x_4\xi+x_1\eta} &= \frac{Y}{-x_5\xi+x_2\eta} = \frac{Z}{-x_6\xi+x_3\eta} = \frac{U}{x_4-x_7\eta} \\ &= \frac{V}{x_5-x_8\eta} = \frac{W}{x_6-x_9\eta} \end{aligned}$$

[定理 15] $X^3=nX(n \neq 0)$, $X^2 \neq nE$

なるとき, P_2 と $(-\xi_1, 0)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は (5) である. 定点は前定理と同じ点となる.

[証明] $|X|=0$ ならば

$$x_4V-x_5U=x_7Y'-x_8X', \quad x_4Y-x_5X=x_1Y'-x_2X'$$

が成立する. 故に前定理と同様に証明せられる. また定点も前定理と同じ点となる.

従って, 次の定理を得る.

[定理 16] $X^3=nX(n \neq 0)$, $X^2 \neq nE$

なるとき, P_1 と $(\xi_2, 0)$ を結ぶ直線が定直線ではなく定点を通る条件は,

$$\begin{aligned} \frac{x_1x_5-x_2x_4}{x_4x_8-x_5x_7} &= \frac{x_3x_4-x_1x_6}{x_6x_7-x_4x_9} = \frac{x_2x_6-x_3x_5}{x_5x_9-x_6x_8} = \frac{x_5X-x_4Y}{x_4V-x_5U} \\ &= \frac{x_6Y-x_5Z}{x_5W-x_6V} = \frac{x_4Z-x_6X}{x_6V-x_4W} \quad \dots\dots(6) \end{aligned}$$

である. 定点は

$$\left(\frac{(x_2X-x_1Y)(x_4V-x_5U)}{(x_5x-x_4Y)(x_7V-x_8U)}, \frac{x_4V-x_5U}{x_7V-x_8U} \right)$$

である.

[証明] P_1 と $(\xi_2, 0)$ を通る直線の方程式より,

$$U(x_4\xi-x_1\eta)=X(x_4-x_7\eta)$$

$$V(x_5\xi-x_2\eta)=Y(x_5-x_8\eta)$$

$$\begin{aligned}
 W(x_6\xi - x_3\eta) &= Z(x_6 - x_9\eta) \\
 (U+V)\{(x_4+x_5)\xi - (x_1+x_2)\eta\} &= (x+Y)(x_4+x_5 - (x_7+x_8)\eta) \\
 (U+W)\{(x_4+x_6)\xi - (x_1+x_3)\eta\} &= (x+Z)(x_4+x_6 - (x_7+x_9)\eta) \\
 (V+W)\{(x_5+x_6)\xi - (x_2+x_3)\eta\} &= (Y+Z)(x_5+x_6 - (x_8+x_9)\eta)
 \end{aligned}$$

を得る。よって、

$$\frac{x_4 - x_7\eta}{x_4\xi - x_1\eta} = \frac{x_5 - x_3\eta}{x_5 - x_2\eta} = \frac{x_6 - x_9\eta}{x_6\xi - x_3\eta} = \frac{U}{X} = \frac{V}{Y} = \frac{W}{Z} \dots\dots(7)$$

か、または

$$\begin{aligned}
 \frac{X}{x_4\xi - x_1\eta} &= \frac{Y}{x_5\xi - x_2\eta} = \frac{Z}{x_4 - x_7\eta} = \frac{V}{x_5 - x_6\eta} \\
 &= \frac{W}{x_6 - x_9\eta} \dots\dots(8)
 \end{aligned}$$

となるが、定理により (8) のみ成立する。

また、 $|X| = 0$ であるならば、

$$\begin{aligned}
 x_4V - x_5U : x_5W - x_6V : x_6U - x_4W \\
 &= x_7V - x_8U : x_8W - x_9V : x_9U - x_7W \\
 &= x_4Y - x_5X : x_5Z - x_6Y : x_6X - x_4Z \\
 &= x_1Y - x_2X : x_2Z - x_3Y : x_3X - x_1Z
 \end{aligned}$$

が成立する故に、定理の結果を得る。

同様にして次の定理を得る。

〔定理 17〕 $X^3 = nX(n \neq 0)$, $X^2 \neq nE$

なるとき、 P_2 と $(\xi_1, 0)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は (6) である。

また定点は、

$$\left(\frac{(x_1Y - x_2X)(x_3X' - x_7Y')}{(x_1Y' - x_2X')(x_3U - x_7V)}, \left(\frac{x_3X' - x_7Y'}{x_3U - x_7V} \right) \right)$$

である。

〔定理 18〕 $X^3 = nX(n \neq 0)$, $X^2 \neq nE$

なるとき、 P_1 と $(\xi_2, 0)$ を結ぶ直線が定直線でなく定点を通り、 P_2

と $(\xi_1, 0)$ を結ぶ直線が定直線でなく定点を通る条件は、(6) である。

また定点は,

$$\left(\frac{(x_2X - x_1Y)(x_4V - x_5U)}{(x_3X - x_4Y)(x_7V - x_8U)}, \frac{x_4V - x_5U}{x_7V - x_8U} \right)$$

である.

[定理 19] $X^3 = nX (n \neq 0), X^2 \neq nE$

なるとき, P_2 と (ξ, η) を結ぶ直線上に $(-\xi_1, \eta_1)$ がある条件は,

$$\frac{X'}{x_4} = \frac{U}{x_7}, \quad \frac{V}{x_8} = -\frac{Y}{x_2}$$

である.

[定理 20] $X^3 = nX (n \neq 0), X^2 \neq nE, X^2 \neq \pm \sqrt{n}X$

なるとき, P_2 と (x^4, y) を結ぶ直線上に, $(\xi_1, -\eta_1)$ がある条件は,

(1) $U = V = 0$

(2) $x_2 = x_8 = 0$

(3) $x_4 = x_7 = 0$

(4) $x_7 = x_8 = 0$

(5) $x_2V - x_8Y = x_4U + x_7X' = 0, \frac{x_1V - x_7Y}{V} = \frac{-x_5U - x_9X'}{U}$
 $= \frac{x_6U + x_9X'}{X'} = \frac{x_9Y - x_3V}{Y}$

である.

[証明] $\left(y - \frac{X'}{U} \right) \left(\frac{x_1x + x_2y + x_3}{x_7x + x_8y + x_9} - \frac{Y}{V} \right) + \left(x - \frac{Y}{V} \right)$

$$\left(\frac{x_4x + x_5y + x_6}{x_7x + x_8y + x_9} - \frac{X'}{U} \right) = 0 \quad \text{より}$$

$$V(x_4U + x_7X') = 0$$

$$U(x_1V - x_7Y) + V(x_5U + x_8X') = 0$$

$$U(x_2V - x_8Y) = 0$$

$$-X'(x_1V - x_7Y) + V(x_6U + x_9X') = 0$$

$$U(x_3U - x_9Y) - X'(x_2V - x_8Y) - Y(x_5U + x_8X') = 0$$

$$-X^1(x_3V - x_9Y) - Y(x_6U + x_9X') = 0$$

よって,

(1) $U=V=0$, (2) $U=x_4U+x_7X'=0$,

(3) $V=x_2V-x_8Y=0$, (4) $x_2V-x_8Y=x_4U+x_7X'$

の場合に分けると, (1) の成立する行列 X はない. (2) より $x_4=x_7=0$
 (3) より $x_2=x_8, x_8=x_7, x_4=x_7=0$ の条件を得る. (4) からは定理の
 (5) の条件を得る.

〔定理 21〕 Q と P_1 を結ぶ直線上に (x, y) が存在する条件は,

(1) $U=V=0$ か, または

(2) $Y=V=0$ か, または

(3) $X'=U=0$ か, または

(4) $x_4U-x_7X'=x_2V-x_8Y=0$,

$$\frac{x_1V-x_7Y}{V} = \frac{x_5U-x_8X'}{U} = \frac{x_9X'-x_3U}{X'} = \frac{x_9Y-x_3V}{Y}$$

である.

〔定理 22〕 Q と P_1 を結ぶ直線上に $(-x, y)$ が存在する条件は,

(1) $U=V=0$ か, または

(2) $X'=U=0$ か, または

(3) $Y=V=0$ か, または

(4) $x_4U-x_7X'=x_2V-x_8Y=0$

$$\frac{x_1V-x_7Y}{V} = \frac{x_8X'-x_5U}{U} = \frac{x_3U-x_9X'}{X'} = \frac{x_3V-x_9Y}{Y}$$

である.

〔定理 23〕 Q と P_1 を結ぶ直線上に $(x, -y)$ が存在する条件は,

(1) $U=V=0$ か, または

(2) $Y=V=0$ か, または

(3) $X'=U=0$ か, または

(4) $x_4U-x_7X'=x_2V-x_8Y=0$

$$\frac{x_7Y-x_1V}{V} = \frac{x_5U-x_8X'}{U} = \frac{x_3U-x_9X'}{X'} = \frac{x_3V-x_9Y}{Y}$$

〔定理 24〕 Q と P_1 を結ぶ直線上に, $(-x, -y)$ が存在する条件は,

(1) $U=V=0$ か, または

- (2) $Y=U=0$ か, または
- (3) $X'=U=0$ か, または
- (4) $x_4U-x_7X'=x_2V-x_8Y=0$

$$\frac{x_1V-x_7Y}{V} = \frac{x_5U-x_8X'}{U} = \frac{x_3U-x_9X'}{X'} = \frac{x_3V-x_9Y}{Y}$$

である.

[定理 25] (1) $U=V=0$, (2) $X'=U=0$, (3) $Y=V=0$ は成立しない.

[証明] 定理 21, 22, 23, 24 より, Q と P_1 が一致する. よって, 行列 X は idempotent 元に K の元を掛けたものとなる.

[定理 26] (x, y) と Q を結ぶ直線と, ξ 軸との交点が, $(\xi_1, 0)$ である条件は,

$$x_1=x_9, \quad x_3=x_7=0$$

[定理 27] (x, y) と Q を結ぶ直線と, ξ 軸との交点が $(-\xi_1, 0)$ である条件は,

$$x_1+x_9=0, \quad x_3=x_7=0$$

[定理 28] (x, y) と P_2 を結ぶ直線と, P_1 より η 軸に平行に引いた直線の交点が,

$$\left(\frac{x_1x+x_2y+x_3}{x_7x+x_8y+x_9}, \frac{x_1x+x_2y+x_3}{x_4x+x_5y+x_6} \right)$$

である条件は,

$$x_3=x_5=x_7=0, \quad UY=X'Y', \quad ZU=Y'Z'$$

$$\begin{aligned} \frac{\frac{1}{Z}}{\left(\frac{X'}{U}x_4-x_1\right)x_9} &= \frac{\frac{1}{Z'}}{x_6\left(\frac{Y}{V}x_7-x_1\right)} = \frac{-\frac{Z}{YZ'}}{x_8\left(\frac{X'}{U}x_4-x_1\right)} \\ &= \frac{-\frac{1}{Z'}}{x_2\left(x_4\frac{X'}{U}-x_7\frac{Y}{V}\right)} = \frac{-\frac{U}{ZX'}}{x_4\left(\frac{Y}{V}x_7-x_1\right)} = \frac{\frac{1}{Z}}{x_1\left(x_4\frac{X'}{U}-x_7\frac{Y}{V}\right)} \end{aligned}$$

である.

〔証明〕 (x, y) と P_2 上の定点を (ξ_0, η_0) とする.

$$A = -Uxy - Vy^2 + X'n + (Y' - W)y + Z'$$

$$B = -Ux^2 - Vxy + (X - W)x + Yy + Z$$

$$C = Xx^2 + (Y' - X)xy - Yy^2 + xZ' - yZ$$

とする.

$$\xi_0 A - \eta_0 B = C$$

また,

$$\frac{C}{x_1x + x_2y + x_3} + \frac{B}{x_4x + x_5y + x_6} - \frac{A}{x_7x + x_8y + x_9} = 0$$

よって,

$$\begin{aligned} & \frac{A}{(x_7x + x_8y + x_9)(x(\xi_0x_4 - x_1) + y(\xi_0x_5 - x_2) + \xi_0x_6 - x_3)} \\ &= \frac{B}{(x_4x + x_5y + x_6)(x(\eta_0x_7 - x_1) + y(\eta_0x_8 - x_2) + \eta_0x_9 - x_3)} \\ &= \frac{C}{(x_1x + x_2y + x_3)(x(\xi_0x_4 - \eta_0x_7) + y(\xi_0x_5 - \eta_0x_8) + \xi_0x_6 - \eta_0x_9)} \end{aligned} \dots\dots (9)$$

である.

$$Ax - By = C$$

より,

$$\begin{aligned} & x(x_7x + x_8y + x_9)(x(\xi_0x_4 - x_1) + y(\xi_0x_5 - x_2) + \xi_0x_6 - x_3) \\ & \quad + y(x_4x + x_5y + x_6)(x(\eta_0x_7 - x_1) + y(\eta_0x_8 - x_2) + \eta_0x_9 - x_3) \\ &= (x_1x + x_2y + x_3)(x(\xi_0x_4 - \eta_0x_7) + y(\xi_0x_5 - \eta_0x_8) + \xi_0x_6 - \eta_0x_9) \end{aligned}$$

よって,

$$\begin{aligned} & x_7(\xi_0x_4 - x_1) = 0 \\ & x_7(\xi_0x_5 - x_2) + x_8(\xi_0x_4 - x_1) - x_4(\eta_0x_7 - x_1) = 0 \\ & x_8(\xi_0x_5 - x_2) - x_4(\eta_0x_8 - x_2) - x_6(\eta_0x_7 - x_1) = 0 \\ & -x_5(\eta_0x_8 - x_2) = 0 \\ & x_7(\xi_0x_6 - x_3) + x_9(\xi_0x_4 - x_1) = x_1(\xi_0x_4 - \eta_0x_7) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 & x_9(\xi_0 x_5 - x_2) + x_8(\xi_0 x_0 - x_3) - x_4(\xi_0 x_7 - x_3) - x_6(\eta_0 x_7 - x_1) \\
 & = x_1(\xi_0 x_6 - \eta_0 x_8) + x_2(\xi_0 x_4 - \eta_0 x_7) \\
 & - x_6(\eta_0 x_8 - x_2) - x_5(\eta_0 x_9 - x_3) = x_2(\xi_0 x_5 - \eta_0 x_8) \\
 & - x_6(\eta_0 x_8 - x_2) - x_5(\eta_0 x_9 - x_3) = x_2(\xi_0 x_5 - \eta_0 x_8) \\
 & x_7(\xi_0 x_6 - x_3) = x_1(\xi_0 x_6 - \eta_0 x_9) + x_3(\xi_0 x_6 - \eta_0 x_7) \\
 & - x_6(\eta_0 x_9 - x_3) = x_2(\xi_0 x_6 - \eta_0 x_9) + x_3(\xi_0 x_5 - \eta_0 x_8) \\
 & x_3(\xi_0 x_6 - \eta_0 x_9) = 0
 \end{aligned}$$

従って,

$$\begin{aligned}
 & (\xi_0 x_4 - x_1)(\eta_0 x_3 - x_2) \{ (\xi_6 x_7 - x_1)(\xi_0 x_5 - x_2) - (\eta_0 x_8 - x_2)(\xi_0 x_4 - x_1) \} = 0 \\
 & (\eta_0 x_8 - x_2)(\xi_0 x_6 - \eta_0 x_9) \{ (\xi_0 x_5 - \eta_0 x_8)(\eta_0 x_9 - x_3) - (\eta_0 x_8 - x_2)(\xi_0 x_6 - \eta_0 x_9) \} = 0 \\
 & (\xi_0 x_6 - \eta_0 x_9)(\xi_0 x_4 - x_1) \{ (\xi_0 x_4 - \eta_0 x_7)(\xi_0 x_6 - x_3) - (\xi_0 x_6 - \eta_0 x_9)(\xi_0 x_4 - x_1) \} = 0
 \end{aligned}$$

が成立する.

$$\begin{aligned}
 & (\xi_0 x_7 - x_1)(\xi_0 x_5 - x_2) - (\eta_0 x_8 - x_2)(\xi_0 x_4 - x_1), \quad (\xi_0 x_5 - \eta_0 x_8)(\eta_0 x_9 - x_3) - (\eta_0 x_8 - x_2)(\xi_0 x_6 - \eta_0 x_9), \\
 & (\xi_0 x_4 - \eta_0 x_7)(\xi_0 x_6 - x_3) - (\xi_0 x_6 - \eta_0 x_9)(\xi_0 x_4 - x_1) \text{ が } 0 \text{ でないとするれば,}
 \end{aligned}$$

$$\xi_0 x_4 - x_1 = \eta_0 x_8 - x_2 = 0 \quad \text{または} \quad \eta_0 x_8 - x_2 = \xi_0 x_6 - \eta_0 x_9 = 0$$

または, $\xi_0 x_6 - \eta_0 x_9 = \xi_0 x_4 - x_1 = 0$ となる. この場合は, いづれも

$$\xi_0 x_4 - x_1 = \eta_0 x_8 - x_2 = \xi_0 x_6 - \eta_0 x_9 = 0$$

に帰着する. よって,

$$x_1 : x_4 : x_7 = x_2 : x_5 : x_8 = x_3 : x_6 : x_9 = x_3 - \xi_0 x_6 : \xi_0 x_5 - x_2 : \eta_0 x_7 - x_1$$

となる. よって, この場合は除外する.

$$\begin{aligned}
 & (\xi_0 x_7 - x_1)(\xi_0 x_5 - x_2) - (\eta_0 x_8 - x_2)(\xi_0 x_4 - x_1), \quad (\xi_0 x_5 - \eta_0 x_8)(\eta_0 x_9 - x_3) - (\eta_0 x_8 - x_2)(\xi_0 x_6 - \eta_0 x_9), \\
 & (\xi_0 x_4 - \eta_0 x_7)(\xi_0 x_6 - x_3) - (\xi_0 x_6 - \eta_0 x_9)(\xi_0 x_4 - x_1) \text{ のいづれかが } 0 \text{ となるならば,}
 \end{aligned}$$

$$X'Y' = UY, \quad Y'Z' = ZV$$

故に

$$A = (Z'Yy + X'Zx + ZZ') \left(-\frac{Z}{Z'Y}y + \frac{1}{Z} \right)$$

$$B = (Z'Yy + X'Zx + ZZ') \left(-\frac{U}{ZX'}x + \frac{1}{Z'} \right)$$

$$C = (ZX'x + YZ'y + ZZ') \left(\frac{1}{Z}x - \frac{1}{Z'}y \right)$$

(9) より

$$\begin{aligned} \frac{\frac{1}{Z} - \frac{Z}{YZ'}y}{\left(\frac{X'}{U}x_4 - x_1\right)(x_7x + x_8y + x_9)} &= \frac{\frac{1}{Z'} - \frac{U}{ZX'}x}{\left(\frac{Y}{V}x_7 - x_1\right)(x_4x + x_5y + x_6)} \\ &= \frac{\frac{1}{Z}x - \frac{1}{Z'}y}{(x_1x + x_2y + x_3)\left(x_4\frac{X'}{U} - x_7\frac{Y}{V}\right)} \end{aligned}$$

が得られる。

[定理 29] $X = Y \pm \frac{\sqrt{n}}{2}E$ とするならば

$$Y^2 \left(Y \pm \frac{3}{2}\sqrt{n}E \right) = \frac{n}{4} \left(Y \pm \frac{3\sqrt{n}}{2}E \right)$$

となる。

三次行列と幾何 (II)

[定理 1]

$$X = \begin{pmatrix} x_1 & x_2 & x_3 \\ x_4 & x_5 & x_6 \\ x_7 & x_8 & x_9 \end{pmatrix}$$

とすると、

$$X_3 = aX^2 \quad (a \neq 0)$$

が成立するならば、 $e_0 = X^2 - aX$ は nilpotent、 $e = \frac{1}{a^2}X^2$ は idempotent である。 $ee_0 = e_0e = e$ また次のいずれかが成立する。

(1) $X = aE$

(2) $|X| = 0$

である。(2) の場合は更に次の (3), (4) の場合に分れる。

(3) $x_1 + x_5 + x_9 = a$ で,

$$e_0 = \begin{pmatrix} x_5x_9 - x_6x_8 & x_3x_3 - x_2x_9 & x_2x_6 - x_3x_5 \\ x_6x_7 - x_4x_9 & x_1x_9 - x_3x_7 & x_3x_4 - x_1x_6 \\ x_4x_8 - x_5x_7 & x_2x_7 - x_1x_8 & x_1x_5 - x_2x_4 \end{pmatrix}$$

$$x_1x_9 + x_5x_9 + x_1x_5 = x_2x_4 + x_3x_7 + x_6x_8$$

e の対角元の和は 1 である。

$$X^2 = \begin{pmatrix} U & V & W \\ U' & V' & W' \\ U'' & V'' & W'' \end{pmatrix}$$

とするならば

$$U : V : W = U' : V' : W' = U'' : V'' : W''$$

である。

(4) $x_1 + x_5 + x_9 = 2a$ で,

$$e_0 = 0$$

e_1 の対角元の和は 2

$$X = \frac{1}{a} X^2$$

である。逆も成立する。

[証明]

$$X^2 = \begin{pmatrix} U & V & W \\ U' & V' & W' \\ U'' & V'' & W'' \end{pmatrix}$$

とする。(4) は,

$$a^2 = x_1x_5 + x_5x_9 + x_9x_1 - x_3x_7 - x_6x_8 - x_2x_4$$

$$VW' - WV' = (x_2x_6 - x_3x_5)a^2$$

$$\frac{-\frac{1}{a^2}V}{1-\frac{1}{a^2}V'} = \frac{-\frac{1}{a^2}W}{-\frac{1}{a^2}W'}$$

従って

$$W = x_3x_5 - x_2x_6, \dots$$

$$\therefore \begin{pmatrix} x_5x_9 - x_6x_8 & x_3x_8 - x_2x_9 & x_2x_6 - x_3x_5 \\ x_6x_7 - x_4x_9 & x_1x_9 - x_3x_7 & x_3x_4 - x_1x_6 \\ x_4x_3 - x_5x_7 & x_2x_7 - x_1x_8 & x_1x_5 - x_2x_4 \end{pmatrix} = E - \frac{1}{a^2}X^2$$

$$\therefore 0 = XY = X - \frac{1}{a^2}X^3 = X - aX^2$$

[定理 2] $x_1 + x_5 + x_9 = a$, $|X| = 0$, で, e_0 に対応する点を Q とする (以下常にかかる場合を扱う). このとき P_2 は定直線上にある.

[証明] e と e_0 とは相異なる 2 定点に対応する.

[定理 3] $x_1 + x_5 + x_9 = a$, $e_0 \neq 0$, $|X| = 0$

なるとき, 行列 X に対応する点 P_1 は定点でない.

[定理 4] P_1 と $(-x, y)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は,

$$x_2x_6x_7 = x_3x_4x_8, \quad \frac{x_6x_7}{x_4} = 2x_1 + x_9, \quad \frac{x_4x_8}{x_7} = 2x_1 + x_3,$$

$$\frac{x_2x_7}{x_8} = -x_1$$

である. 定点は $\left(\frac{x_2}{x_8}, -\frac{x_4}{x_7}\right)$ である.

[証明] 直線の方程式は,

$$\begin{aligned} & \xi \left(\frac{x_4x + x_5y + x_6}{x_7x + x_8y + x_9} - y \right) - \eta \left(\frac{x_1x + x_2y + x_3}{x_7x + x_8y + x_9} + x \right) \\ &= \frac{-x(x_4x + x_5y + x_6)}{x_7x + x_8y + x_9} - \frac{y(x_1x + x_2y + x_3)}{x_7x + x_8y + x_9} \end{aligned}$$

である. よって,

$$\begin{cases} -x_7\xi = -x_4 \\ -x_7\xi - x_8\eta = -x_1 - x_3 \end{cases}$$

$$\begin{cases} -x_8\xi = -x_2 \\ -x_4\xi = (x_1+x_9)\eta = -x_6 \\ (x_5-x_9)\xi - x_2\eta = -x_3 \\ x_6\xi - x_3\eta = 0 \end{cases}$$

$$\therefore \frac{x_8}{V''-2ax_8} = \frac{-x_7}{U''} = \frac{-x_4}{U'} = \frac{-x_2}{V} = \frac{1}{K}$$

$$\therefore \frac{x_6x_7}{x_4} = -K - x_1 - x_5, \quad \frac{x_4x_8}{x_7} = -K - x_1 - x_9,$$

$$\frac{x_2x_7}{x_8} = K + 2x_1 + x_5 + x_9$$

$$x_2x_4 + x_3x_7 + x_6x_8 = x_1x_5 + x_5x_9 + x_9x_1$$

より,

$$K = -x_1 - x_4 - x_9 \text{ 或は } K = -3x_1 - x_5 - x_9$$

となる.

$$K = -x_1 - x_5 - x_9 \text{ ならば, } x_1x_3 = x_2x_7, \quad x_6x_7 = x_1x_9, \quad x_4x_8 = x_5x_7$$

となる.

[定理 5] P_1 と $(x, -y)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は,

$$x_2x_6x_7 = x_3x_4x_8, \quad \frac{x_2x_7}{x_8} = x_1 + 2x_5, \quad \frac{x_6x_7}{x_4} = 2x_5 + x_9,$$

$$\frac{x_4x_8}{x_7} = -x_5$$

である. 定点は,

$$\left(\frac{x_2}{x_8}, \frac{x_4}{x_7} \right)$$

である.

[定理 6] P_1 と (x, y) を結ぶ直線が定点を通る条件は,

$$\frac{x_6x_7}{x_4} = \frac{-2x_1 - 2x_5 + x_9}{3}, \quad \frac{x_4x_8}{x_7} = \frac{-2x_1 - 2x_5 + x_9}{3},$$

$$\frac{x_2x_7}{x_8} = \frac{x_1 - 2x_5 - 2x_9}{3}$$

$$x_2x_6x_7 = x_7x_4x_8$$

である。定点は $\left(\frac{x_2}{x_8}, \frac{x_4}{x_7}\right)$ である。

〔定理 7〕 P_1 と $(-x, -y)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は、

$$x_2x_6x_7 = x_8x_4x_8, \quad \frac{x_2x_7}{x_8} = x_1 + 2x_9, \quad \frac{x_4x_8}{x_7} = x_5 + 2x_9,$$

$$\frac{x_6x_7}{x_4} = -x_9$$

である。定点は $\left(\frac{x_2}{x_8}, \frac{x_4}{x_7}\right)$ である。

〔定理 8〕 行列 e に定応する点を P とする。 $P_1(\xi_1, \eta_1)$ とするとき

$$\overline{P_1Q} : \overline{P_1P} = \xi_1 : \eta_1$$

となる条件は、

$$x_4x_5x_6 \neq 0 \quad U' = V' = W' = 0 \text{ か}, \text{ または}$$

$$\frac{x_4(x_1U'' - x_7U)}{U'' - ax_7} = \frac{x_1(x_1U'' - x_7U)}{U''}, \quad \frac{x_5(x_1V'' - x_7V)}{U'' - ax_7}$$

$$= \frac{x_2(x_2U'' - x_8U)}{U''}, \quad \frac{x_6(x_1W'' - x_7W)}{U'' - ax_7} = \frac{x_3(x_3U'' - x_9U)}{U''}$$

である。

〔証明〕 条件より

$$x_4 \left(x_1 - \frac{U - ax_1}{U'' - ax_7} x_7 \right) = x_1 \left(x_1 - x_7 \frac{U}{U''} \right) \quad \dots\dots(1)$$

$$x_5 \left(x_2 - x_8 \frac{U - ax_1}{U'' - ax_7} \right) = x_2 \left(x_2 - x_8 \frac{U}{U''} \right) \quad \dots\dots(2)$$

$$x_6 \left(x_3 - x_9 \frac{U - ax_1}{U'' - ax_7} \right) = x_3 \left(x_3 - x_9 \frac{U}{U''} \right) \quad \dots\dots(3)$$

$$x_5 \left(x_1 - \frac{U - ax_1}{U'' - ax_7} x_7 \right) + x_4 \left(x_2 - \frac{U - ax_1}{U'' - ax_7} x_8 \right)$$

$$= x_2 \left(x_1 - x_7 \frac{U}{U''} \right) + x_1 \left(x_2 - x_8 \frac{U}{U''} \right) \quad \dots\dots(4)$$

$$\begin{aligned}
 & x_6 \left(x_1 - \frac{U - ax_1}{U'' - ax_7} x_7 \right) + x_4 \left(x_3 - \frac{U - ax_1}{U'' - ax_7} x_9 \right) \\
 &= x_1 \left(x_3 - x_9 \frac{U}{U''} \right) + x_3 \left(x_1 - x_7 \frac{U}{U''} \right) \quad \dots\dots(5)
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 & x_6 \left(x_2 - \frac{U - ax_1}{U'' - ax_7} x_8 \right) + x_5 \left(x_3 - \frac{U - ax_1}{U'' - ax_7} x_9 \right) \\
 &= x_2 \left(x_3 - x_9 \frac{U}{U''} \right) + x_3 \left(x_2 - x_8 \frac{U}{U''} \right) \quad \dots\dots(6)
 \end{aligned}$$

$x_4 x_5 \neq 0$ のとき (1), (2) を (4) に代入して,

$$U'(x_1 x_5 - x_2 x_4)(x_2 x_7 - x_1 x_8) = 0$$

$x_5 x_6 \neq 0$ のとき (2), (3) を (5) に代入して,

$$U'(x_1 x_6 - x_3 x_4)(x_1 x_9 - x_3 x_7) = 0$$

$x_6 x_4 \neq 0$ のとき (3), (1) を (6) に代入して,

$$U'(x_2 x_6 - x_3 x_5)(x_2 x_7 - x_1 x_8) = 0$$

U' は V' , W' に置き換えることができる。

$x_4 x_5 x_6 = 0$ のときは、ない。

[定理 9]

$$\overline{P_1 Q} : \overline{P_1 P} = \xi_1 : -\eta_1$$

となる条件は

$$x_4 x_5 x_6 \neq 0, \quad U' = V' = W' = 0,$$

$$\begin{aligned}
 & \frac{-x_4(x_1 U'' - x_7 U)}{U'' - ax_7} = \frac{x_1(x_1 U'' - x_7 U)}{U''}, \quad \frac{x_5(x_1 V'' - x_7 V)}{U'' - ax_7} \\
 &= \frac{x_2(x_2 U'' - x_3 U)}{U''}, \quad \frac{-x_6(x_1 W'' - x_7 W)}{U'' - ax_7} \\
 &= \frac{x_3(x_3 U'' - x_9 U)}{U''}
 \end{aligned}$$

である。

[定理 10] $\overline{P_1 Q} : \overline{P_1 P} = \eta_1 : \xi_1$

となる条件は,

$$U = V = W = 0, \quad x_1 x_2 x_3 \neq 0$$

$$\begin{aligned} \frac{x_4(x_1U''-x_7U)}{U''-ax_7} &= \frac{x_1(x_1U''-x_7U)}{U''}, \quad \frac{x_5(x_1V''-x_7V)}{U''-ax_7} \\ &= \frac{x_2(x_2U''-x_8U)}{U''}, \quad \frac{x_6(x_1W''-x_7W)}{U''-ax_7} = \frac{x_3(x_3U''-x_9U)}{U''} \end{aligned}$$

である。

[定理 11] $\overline{P_1Q} : \overline{P_1P} = -\eta_1 : \xi_1$

となる条件は,

$$U=V=W=0, \quad x_1x_2x_3 \neq 0$$

$$\begin{aligned} -\frac{x_4(x_1U''-x_7U)}{U''-ax_7} &= \frac{x_1(x_1U''-x_7U)}{U''}, \quad -\frac{x_5(x_1V''-x_7V)}{U''-ax_7} \\ &= \frac{x_2(x_2U''-x_8U)}{U''}, \quad -\frac{x_6(x_1W''-x_7W)}{U''-ax_7} \\ &= \frac{x_3(x_3U''-x_9U)}{U''} \end{aligned}$$

である。

[定理 12]

$$\frac{x_7V'-x_4V''}{x_7U'-x_4U''} = \frac{x_8V-x_2V''}{x_8U-x_2U''} = \frac{x_6V-x_5V'}{x_6U-x_3U'}$$

[定理 12] 行列 $X-aE$ に対応する点を R とする。

\overline{QR} は定直線である。

[証明] Q と R は相異なる点である。 \overline{QR} の方向係数は, $-\frac{V''}{U''}$

である。

[定理 14] $Y=X-aE$ は

$$Ye_0=e_0Y=-ae_0, \quad e_1Y=Ye_1=0, \quad Y^2+aY=e_0,$$

$$Y^3=-2aY^2-a^2Y$$

なる元である。

またこの直線上に Q がある。

[定理 15] R は P_1 と (x, y) を結ぶ直線上にある。

[定理 16] $|X|=0, \quad x_1+x_5+x_9=a$ ならば,

$$\begin{aligned} \frac{a^2 - V' - W''}{U''} &= \frac{V}{V''} = \frac{W}{a^2 - U - V'}, & \frac{U''}{U'} &= \frac{V''}{a^2 - U - W''} \\ &= \frac{a^2 - U - V'}{W'} \end{aligned}$$

である。

[定理 17] $E - \frac{1}{a^2}X^2$ に対応する点は、定直線

$$(a^2 - V' - W'')\xi + V\eta + W = 0$$

の上にある。

[定理 18] $X - nE$ に対応する点が定直線上にある条件は、

$$n = a$$

である。

[定理 19] $X = Y + \frac{a}{2}E$ とするならば

$$Y^2 \left(Y + \frac{a}{2}E \right) = \frac{1}{4}a^2 \left(Y + \frac{a}{2}E \right)$$

となる。

三次の行列と幾何 (III)

[定理 1] X を三次の行列する。

$$R = \{xX + yX^2 \mid x, y \in \text{field } K, X^3 = aX^2 + bX,$$

$$\frac{1}{b}, \frac{1}{\sqrt{a^2 + 4b}} \in K, X^2 \neq \frac{a \pm \sqrt{a^2 + 4b}}{2}X, K \text{ の指標は } 0\}$$

に於いては、3 つの idempotent element e_1, e_2, e_3 が存在する。

$$e_1 = -\frac{a}{b}X + \frac{1}{b}X^2, \quad e_2 = \left(-\frac{a}{2b} - \frac{a^2 + 2b}{2b} \frac{1}{\sqrt{a^2 + 4b}} \right) X$$

$$+ \left(\frac{1}{2b} + \frac{a}{2b} \frac{1}{\sqrt{a^2 + 4b}} \right) X^2, \quad e_3 = \left(-\frac{a}{2b}$$

$$+ \frac{a^2 + 2b}{2b} \frac{1}{\sqrt{a^2 + 4b}} \right) X + \left(\frac{1}{2b} - \frac{a}{2b} \frac{1}{\sqrt{a^2 + 4b}} \right) X^2$$

$$e_1 = e_2 + e_3, \quad e_2 e_3 = e_3 e_2 = 0$$

また, $x_1 + x_3 + x_9 = a$, $b = x_2x_4 + x_3x_7 + x_6x_8 - x_1x_5 - x_5x_9 - x_9x_1$ $|X| = 0$ である. idempotent 元 e_1, e_2 の対角元の和は 1 である.

$$Y = \begin{pmatrix} x_5x_9 - x_6x_8 & x_3x_8 - x_2x_9 & x_2x_6 - x_3x_5 \\ x_6x_7 - x_4x_9 & x_1x_9 - x_3x_7 & x_3x_4 - x_1x_6 \\ x_4x_8 - x_5x_7 & x_2x_7 - x_1x_8 & x_1x_5 - x_2x_4 \end{pmatrix}$$

とする.

$e = -\frac{1}{b}Y$ は対角元の和が 1 なる idempotent 元である. また,

$$ee_2 = e_2e = ee_3 = e_3e = 0$$

$$E = e + e_2 + e_3$$

$$Y = X^2 - aX + bE$$

である.

[定理 2] $|X| = 0$ のとき,

$$\frac{x_4}{x_7} = \frac{x_5}{x_8} = \frac{x_6}{x_9} \quad \text{或は} \quad \frac{x_1}{x_7} = \frac{x_2}{x_8} = \frac{x_3}{x_9}$$

なることはない.

[証明] $\overline{P_1P_2}$ は定直線であるから, 成立するならば, X は idempotent に体 K の元を掛けたものになる.

[定理 3] X^2 に対応する点をそれぞれ P_2 とするならば $\overline{P_1P_2}$ は定直線である.

[定理 4] $P_1 = (\xi_1, \eta_1)$, とする. (x, y) と $(0, \eta_1)$ を結ぶ直線が, 定点を通る条件は,

$$x_6 = x_5 - x_9 = x_8 = 0 \quad \text{で定点は} \quad \left(\frac{-x_5}{x_7}, \frac{x_4}{x_7} \right)$$

である.

[定理 5] $(-x, y)$ と $(0, \eta_1)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は,

$$x_6 = x_8 = x_5 - x_9 = 0 \quad \text{で定点は} \quad \left(\frac{x_5}{x_7}, \frac{x_4}{x_7} \right)$$

である.

[定理 6] $(x, -y)$ と $(0, \eta_1)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は,

$$x_6 = x_8 = x_5 + x_9 = 0 \text{ で定点は } \left(\frac{x_5}{x_7}, \frac{x_4}{x_7} \right)$$

である。

〔定理 7〕 $(-x, -y)$ と $(0, \eta_1)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は

$$x_6 = x_8 = x_5 + x_9 = 0 \text{ で定点は } \left(-\frac{x_5}{x_7}, \frac{x_4}{x_7} \right)$$

である。

〔定理 8〕 (y, x) と $(0, \eta_1)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は、

$$x_6 = x_7 = x_4 - x_9 = 0 \text{ で、 定点は } \left(-\frac{x_4}{x_8}, \frac{x_5}{x_8} \right)$$

である。

〔定理 9〕 $(-y, x)$ と $(0, \eta_1)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は、

$$x_4 - x_9 = x_6 = x_7 = 0 \text{ で、 定点は } \left(\frac{x_4}{x_8}, \frac{x_5}{x_8} \right)$$

である。

〔定理 10〕 $(y, -x)$ と $(0, \eta_1)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は、

$$x_7 = x_6 = x_4 - x_9 = 0 \text{ で、 定点は } \left(-\frac{x_4}{x_8}, \frac{x_5}{x_8} \right)$$

である。

〔定理 11〕 $(-y, -x)$ と $(0, \eta_1)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は

$$x_7 = x_6 = x_4 + x_9 = 0 \text{ で、 定点は } \left(-\frac{x_4}{x_8}, \frac{x_5}{x_8} \right)$$

である。

〔定理 12〕 $|X| = 0$ のとき、 e_2, e_3, X^n に対応する点を A, B, P_n とするならば、

$$\frac{\overline{P_n A}}{\overline{P_n B}} : \frac{\overline{P_{n+1} A}}{\overline{P_{n+1} B}} = 1 : \frac{a + \sqrt{a^2 + 4b}}{a - \sqrt{a^2 + 4b}}$$

である。

$$\text{〔証明〕 } A_1 = -\frac{a}{2b} - \frac{a^2 + 2b}{2b\sqrt{a^2 + 4b}}, \quad B_1 = \frac{1}{2b} + \frac{a}{2b\sqrt{a^2 + 4b}}$$

$$A_2 = -\frac{a}{2b} + \frac{a^2 + 2b}{2b\sqrt{a^2 + 4b}}, \quad B_2 = \frac{1}{2b} - \frac{a}{2b\sqrt{a^2 + 4b}}$$

とすれば

$$e_2 = A_1X + B_1X^2, \quad e_3 = A_2X + B_2X^2 \quad \therefore$$

$$X^n = \left(\frac{a}{2} - \frac{\sqrt{a^2 + 4b}}{2} \right)^n e_2 + \left(\frac{a}{2} + \frac{\sqrt{a^2 + 4b}}{2} \right)^n e_3$$

〔定理 13〕 $|X| = 0$ のとき、 Y に対応する点を Q とする。 (x, y) と Q を結ぶ直線と ξ 軸との交点が $(\eta_1, 0)$ である条件は

$$x_6 = x_4 - x_9 = x_7 = 0$$

である。

〔定理 14〕 $|X| = 0$ のとき、 (x, y) と Q を結ぶ直線と ξ 軸との交点が $(-\eta_1, 0)$ である条件は、

$$x_7 = x_4 + x_9 = x_6 = 0$$

である。

$|X| = 0$ のとき、 X が点 P_1 に対応するならば $x_4x_8 \neq x_5x_7$, x_1x_8 $\neq x_2x_7$

である。

〔証明〕 $x_4x_8 = x_5x_7$, $x_1x_8 = x_2x_7$ ならば、定理 2 より、

$$x_1x_5 \neq x_2x_4, \quad x_7 = x_8 = 0$$

$|X| = 0$ より $x_9 = 0$ となる。

$x_4x_8 = x_5x_7$, $x_1x_8 \neq x_2x_7$ ならば、 $x_6x_7 = x_4x_9$, $x_5x_9 = x_6x_8$ が成立し、定理 6 に反する。

$x_2x_7 = x_1x_8$ ときも同様である。

〔定理 15〕 K を実数体とする。 e_2, e_3 に対応する点をそれぞれ A, B とする。 三角形 ABQ に於て、

$$AQ = BQ$$

なる条件は、

$$x_8(a^2 + 2b) = aV''$$

か、または

$$x_4U'' - x_7U' = x_2V'' - x_8V$$

である。

〔証明〕

$$A \left(\frac{A_1 x_2 + B_1 V}{A_1 x_8 + B_1 V''}, \frac{A_1 x_4 + B_1 U'}{A_1 x_7 + B_1 U''} \right),$$

$$B \left(\frac{A_2 x_2 + B_2 V}{A_2 x_8 + B_2 V''}, \frac{A_2 x_4 + B_2 U'}{A_2 x_7 + B_2 U''} \right)$$

ここに

$$A_1 = -\frac{a}{2b} - \frac{a^2 + 2b}{2b\sqrt{a^2 + 4b}}, \quad A_2 = -\frac{a}{2b} + \frac{a^2 + 2b}{2b\sqrt{a^2 + 4b}}$$

$$B_1 = \frac{1}{2b} + \frac{a}{2b\sqrt{a^2 + 4b}}, \quad B_2 = \frac{1}{2b} - \frac{a}{2b\sqrt{a^2 + 4b}}$$

$$Q \left(\frac{x_3 x_8 - x_2 x_9}{x_2 x_7 - x_1 x_8}, \frac{x_6 x_7 - x_4 x_9}{x_4 x_8 - x_5 x_9} \right)$$

よって、二等辺三角である条件は、

$$\begin{aligned} & \left(\frac{A_1 x_1 + B_1 U}{A_1 x_7 + B_1 U''} - \frac{A_2 x_1 + B_2 U}{A_2 x_7 + B_2 U''} \right) \left(\frac{A_1 x_2 + B_1 V}{A_1 x_8 + B_1 V''} \right. \\ & \quad \left. + \frac{A_2 x_2 + B_2 V}{A_2 x_8 + B_2 V''} - 2 \frac{x_3 x_8 - x_2 x_9}{x_2 x_7 - x_1 x_8} \right) + \left(\frac{A_1 x_4 + B_1 U'}{A_1 x_7 + B_1 U''} \right. \\ & \quad \left. - \frac{A_2 x_4 + B_2 U'}{A_2 x_7 + B_2 U''} \right) \left(\frac{A_1 x_4 + B_1 U'}{A_1 x_7 + B_1 U'} + \frac{A_2 x_4 + B_2 U'}{A_2 x_7 + B_2 U''} \right. \\ & \quad \left. - 2 \frac{x_6 x_7 - x_4 x_9}{x_4 x_8 - x_5 x_9} \right) = 0 \end{aligned}$$

である。

$$\frac{A_i x_4 + B_i V}{A_i x_8 + B_i V''} - \frac{x_3 x_8 - x_2 x_9}{x_2 x_7 - x_1 x_8} = \frac{(A_i + aB_i)(x_2 V'' - x_8 V)}{(A_i x_8 + B_i V'')(x_2 x_7 - x_1 x_8)} \quad (i$$

$$= 1, 2)$$

$$\frac{A_i x_4 + B_i U'}{A_i x_7 + B_i U'} - \frac{x_6 x_7 - x_4 x_9}{x_4 x_8 - x_5 x_9} = \frac{(A_i + aB_i)(x_4 U'' - x_7 U')}{(A_i x_7 + B_i U'')(x_4 x_8 - x_5 x_9)} \quad (i$$

$$= 1, 2)$$

より、

$$\frac{A_1 + aB_1}{A_1 x_8 + B_1 V''} + \frac{A_2 + aB_2}{A_2 x_8 + B_2 V''} = 0$$

か、または、

$$\frac{(x_1 U'' - x_7 U)(x_2 V'' - x_8 V)}{x_2 x_7 - x_1 x_8} + \frac{(x_4 U'' - x_7 U')^2}{x_4 x_8 - x_5 x_7} = 0$$

$$\frac{x_4 U'' - x_7 U'}{x_1 U'' - x_7 U} = \frac{x_4 x_8 - x_5 x_7}{x_1 x_8 - x_2 x_7}$$

である。

〔定理 16〕 $E - e_1$ に対応する点を P , e_2 に対応する点を Q , e_3 に対応する点を R とするならば、

$$\left(\frac{1}{2} - \frac{a}{2\sqrt{a^2+4b}} \right) E + \frac{1}{\sqrt{a^2+4b}} X \text{ に対応する点は、}$$

直線 \overline{PR} の上にある。

$$\left(\frac{1}{2} + \frac{a}{2\sqrt{a^2+4b}} \right) E - \frac{1}{\sqrt{a^2+4b}} X \text{ に対応する点は、直線 } \overline{PQ}$$

の上にある。

〔定理 17〕 $P_n(\xi_n, \eta_n)$, $P_{n+1}(\xi_{n+1}, \eta_{n+1})$ とする。 $(\xi_n, 0)$ と P_{n+1} を結ぶ直線が定点を通る条件は、

$$\frac{x_4 V' - x_2 U'}{x_1 x_5 - x_2 x_4} = \frac{x_7 V'' - x_8 U''}{x_5 x_7 - x_4 x_8}, \quad \frac{x_2 W' - x_3 V'}{x_2 x_6 - x_3 x_5}$$

$$= \frac{x_8 W'' - x_9 V''}{x_6 x_8 - x_5 x_9}, \quad \frac{x_3 U' - x_1 W'}{x_3 x_4 - x_1 x_6} = \frac{x_9 U'' - x_3 W''}{x_4 x_9 - x_6 x_7}$$

で、定点は、

$$\left(\frac{(x_1 V - x_2 U)(x_7 V' - x_8 U')}{(x_1 V' - x_2 U')(x_7 V'' - x_8 U'')}, \frac{x_7 V' - x_8 U'}{x_7 V'' - x_8 U''} \right)$$

である。また、

$$\frac{x_7 V' - x_8 U'}{x_7 V'' - x_8 U''} = \frac{x_8 W' - x_9 U'}{x_8 W'' - x_9 V''} = \frac{x_9 U' - x_7 W'}{x_9 U'' - x_7 W''},$$

$$\frac{x_1 V - x_2 U}{x_1 V' - x_2 U'} = \frac{x_2 W - x_3 V}{x_2 W' - x_3 V'} = \frac{x_3 U - x_1 W}{x_3 U' - x_1 W'}$$

が成立する。

〔定理 18〕 e_1 に対応する点の ξ 座標を ξ_0 とする。 P_1 と $(\xi_0, 0)$ を結ぶ直線が定点を通る条件は、

$$\frac{x_4x_8 - x_5x_7}{x_8U'' - x_7V''} = \frac{x_5x_9 - x_6x_8}{x_9V'' - x_8W''} = \frac{x_6x_7 - x_4x_9}{x_7W'' - x_9U''}$$

$$\frac{Ux_2 - Vx_1}{x_2x_4 - x_1x_5} = \frac{Vx_3 - Wx_2}{x_5x_3 - x_2x_6} = \frac{Wx_1 - Ux_3}{x_1x_6 - x_3x_4}$$

$$\frac{x_5U - x_4V}{x_2x_4 - x_1x_5} = \frac{x_5U'' - x_4V''}{x_4x_8 - x_4x_7}, \quad \frac{x_6V - x_5W}{x_3x_5 - x_2x_6} = \frac{x_6V'' - x_5W''}{x_5x_9 - x_3x_6}$$

$$\frac{x_4W - x_6U}{x_1x_6 - x_4x_3} = \frac{x_4W'' - x_6U''}{x_6x_7 - x_4x_9}$$

である。その定点は、

$$\left(\frac{(Ux_2 - Vx_1)\{(x_4x_8 - x_5x_7)a + x_5U'' - x_4V''\}}{\{Ux_5 - Vx_4 + a(x_2x_4 - x_1x_5)\}(x_8U'' - x_7V'')}, \frac{a(x_4x_8 - x_5x_7) + x_5U'' - x_4V''}{x_8U'' - x_7V''} \right)$$

である。

〔定理 19〕 (x, y) と Q を結ぶ直線の ξ 軸との交点の原点に関する対称点を P_1 に結ぶ直線が定直線に平行である条件は、

(i) $x_7 = 0, \quad \frac{x_1 + x_9}{x_4} = \frac{x_3}{x_6}$

(ii) $\frac{x_1 + x_9}{x_4} = \frac{x_8(x_5x_9 - x_6x_8)}{x_5(x_4x_8 - x_5x_7)} + \frac{x_2}{x_3} = \frac{x_9(x_5x_9 - x_6x_8)}{x_6(x_4x_8 - x_5x_9)} + \frac{x_3}{x_6}$

である。

〔定理 20〕 X^n に対応する点を P^n とする。 $\overline{QP_n}$ と ξ 軸との交点の原点に関する対称点を P_{n+1} と結ぶ直線が定直線に平行である条件は、

$Q(\xi_0, \eta_0)$ とするとき、

$$\frac{x_4 - x_7\eta_0}{U''} = \frac{x_5 - x_8\eta_0}{V''} = \frac{x_6 - x_9\eta_0}{W''}$$

$$= \frac{\eta_0(x_2U' - x_1V') - \xi_0(x_5U' - x_4V')}{VU' - UV'}$$

$$= \frac{\eta_0(x_3V' - x_2W') - \xi_0(x_6V' - x_5W')}{WV' - VW'}$$

$$= \frac{\eta_0(x_1W' - x_3U') - \xi_0(x_4W' - x_6U')}{UW' - WU'}$$

で、その方向係数は、

$$\begin{aligned} & \frac{\eta_0(x_2 U - x_1 V) - \xi_0(x_3 U - x_4 V)}{\eta_0(x_2 U' - x_1 V') - \xi_0(x_3 U' - x_4 V')} \\ &= \left(\frac{\eta_0(x_3 V - x_2 W) - \xi_0(x_6 V - x_5 W)}{\eta_0(x_3 V' - x_2 W') - \xi_0(x_6 V' - x_5 W')} \right) \\ &= \left(\frac{\eta_0(x_1 W - x_3 U) - \xi_0(x_4 W - x_6 U)}{\eta_0(x_1 W' - x_3 U') - \xi_0(x_4 W' - x_6 U')} \right) \end{aligned}$$

である。

〔証明〕 $n=1$ のとき成立する。また、

$$X^{n+2} = aX^{n+1} + bX^n,$$

$$X^n = \begin{pmatrix} x_1^{(n)} & x_2^{(n)} & x_3^{(n)} \\ x_4^{(n)} & x_5^{(n)} & x_6^{(n)} \\ x_7^{(n)} & x_8^{(n)} & x_9^{(n)} \end{pmatrix}$$

とすると

$$Y^n = \begin{pmatrix} x_5^{(n)} x_9^{(n)} - x_6^{(n)} x_8^{(n)} & x_3^{(n)} x_8^{(n)} - x_2^{(n)} x_9^{(n)} \\ x_6^{(n)} x_7^{(n)} - x_4^{(n)} x_9^{(n)} & x_1^{(n)} x_9^{(n)} - x_3^{(n)} x_7^{(n)} \\ x_4^{(n)} x_8^{(n)} - x_5^{(n)} x_7^{(n)} & x_2^{(n)} x_7^{(n)} - x_1^{(n)} x_8^{(n)} \\ x_2^{(n)} x_6^{(n)} - x_3^{(n)} x_5^{(n)} \\ x_8^{(n)} x_4^{(n)} - x_1^{(n)} x_6^{(n)} \\ x_1^{(n)} x_5^{(n)} - x_2^{(n)} x_4^{(n)} \end{pmatrix}$$

であることより、

$$\begin{aligned} & \frac{x_4^{(n)} - \eta_0 x_7^{(n)}}{x_7^{(n+1)}} = \frac{x_5^{(n)} - \eta_0 x_8^{(n)}}{x_8^{(n+1)}} = \frac{x_6^{(n)} - \eta_0 x_9^{(n)}}{x_9^{(n+1)}} \\ &= \frac{\eta_0(x_2^{(n)} x_4^{(n+1)} - x_1^{(n)} x_5^{(n+1)}) - \xi_0(x_5^{(n)} x_4^{(n+1)} - x_4^{(n)} x_5^{(n+1)})}{x_2^{(n+1)} x_4^{(n+1)} - x_1^{(n+1)} x_5^{(n+1)}} \\ &= \frac{\eta_0(x_3^{(n)} x_5^{(n+1)} - x_2^{(n)} x_6^{(n+1)}) - \xi_0(x_6^{(n)} x_5^{(n+1)} - x_5^{(n)} x_6^{(n+1)})}{x_3^{(n+1)} x_5^{(n+1)} - x_2^{(n+1)} x_6^{(n+1)}} \\ &= \frac{\eta_0(x_1^{(n)} x_6^{(n+1)} - x_3^{(n)} x_4^{(n+1)}) - \xi_0(x_4^{(n)} x_6^{(n+1)} - x_6^{(n)} x_4^{(n+1)})}{x_1^{(n+1)} x_6^{(n+1)} - x_3^{(n+1)} x_4^{(n+1)}} \\ &= \frac{x_4 - x_7 \eta_0}{U''} \end{aligned}$$

[定理 21] \overline{AB} と \overline{BQ} が直交する条件は、

$$\frac{(x^2 V'' - x_8 V)^2}{(A_1 x_8 + B_1 V'')(A_2 x_8 + B_2 V'')^2 (x_2 x_7 - x_1 x_8)} + \frac{(x_4 U'' - x_7 U')^2}{(A_1 x_7 + B_1 U'')(A_2 x_7 + B_2 U'')^2 (x_4 x_8 - x_5 x_7)} = 0$$

\overline{AB} と \overline{AQ} が直交する条件は

$$\frac{(x_2 V'' - x_8 V)^2}{(A_1 x_8 + B_1 V'')^2 (A_2 x_8 + B_2 V'')(x_2 x_7 - x_1 x_8)} + \frac{(x_4 U'' - x_7 U')^2}{(A_1 x_7 + B_1 U'')^2 (A_2 x_7 + B_2 U'')(x_4 x_8 - x_5 x_7)} = 0$$

である。

[定理 22] $X = Y_1 + \frac{a}{2}E$ とするならば、

$$Y_1^2 \left(Y_1 + \frac{a}{2}E \right) = \left(\frac{1}{4}a^2 + b \right) \left(Y_1 + \frac{a}{2}E \right)$$

$X = Y_2 + \frac{\alpha}{2}E$ とするならば

$$Y_2^2 \left(Y_2 + \left(\frac{3\alpha}{2} - a \right) E \right) = -\frac{\alpha^2}{4} \left(Y_2 + \left(\frac{3\alpha}{2} - a \right) E \right)$$

$X = Y_3 + \frac{\beta}{2}E$ とするならば

$$Y_3^2 \left(Y_3 + \left(\frac{3\beta}{2} - a \right) E \right) = \frac{\beta^2}{4} \left(Y_3 + \left(\frac{3\beta}{2} - a \right) E \right)$$

となる。ここに、 α, β は二次方程式

$$t^2 - at = b = 0$$

の根である。

三次の行列と幾何 (IV)

[定理 1] 環 R

$$\left\{ xX + yX^2 \mid x, y \in \text{real number field } K, \right.$$

$$X^3 = aX^2 - \frac{a^2}{4}X, \quad K \in \frac{1}{a}, \quad \left. \vphantom{X^3} \right\}$$

に於いて、 X が K の元を element とする三次行列であるならば、
 $|X| = 0$

である。

〔証明〕 R の $|X| \neq 0$ とするならば

$$X^2 = aX - \frac{a^2}{4}E \quad (E \text{ は単位行列})$$

$$X = \begin{pmatrix} x_1 & x_2 & x_3 \\ x_4 & x_5 & x_6 \\ x_7 & x_8 & x_9 \end{pmatrix}, \quad X^2 = \begin{pmatrix} U & V & W \\ U' & V' & W' \\ U'' & V'' & W'' \end{pmatrix}$$

とおく。

$$\left. \begin{aligned} 1 &= \frac{4}{a}x_1 - \frac{4}{a^2}U, & V &= ax_2, & W &= ax_3 \\ U' &= ax_4, & 1 &= \frac{4}{a}x_5 - \frac{4}{a^2}V', & W' &= ax_6, \\ U'' &= ax_7, & V'' &= ax_8, & 1 &= \frac{4}{a}x_9 - \frac{4}{a^2}W' \end{aligned} \right\} \dots\dots(1)$$

$$(x_2x_6 - x_3x_5)U + (x_3x_4 - x_1x_6)V + (x_1x_5 - x_2x_4)W = x_3 |X|.$$

$$\therefore x_2x_6 - x_3x_5 = -\frac{4x_3}{a^2} |X|$$

同様にして、結局

$$X^{-1} = \frac{1}{|X|} \begin{pmatrix} x_5x_9 - x_6x_8 & x_3x_8 - x_2x_9 & x_2x_6 - x_3x_5 \\ x_6x_7 - x_4x_9 & x_1x_9 - x_3x_9 & x_3x_4 - x_1x_6 \\ x_4x_8 - x_5x_7 & x_2x_7 - x_1x_8 & x_1x_5 - x_2x_4 \end{pmatrix} = -\frac{4}{a^2}X$$

$$\therefore |X|^2 = -\frac{a^6}{64} < 0$$

〔定理 2〕 環 R の idempotent 元 $e_1 = \frac{4}{a}X - \frac{4}{a^2}X^2$ の対角元の和は 2 であるか、または、 $\frac{2}{a}X$ が idempotent である。(以後、 $\frac{2}{a}X$ が idempotent である場合は除く)

〔証明〕 前定理より $e_1 \in E$, e_1 の対角元の和が 1 とする.

$e_0 = X - \frac{2}{a}X^2$ は nilpotent である.

$$\therefore x_1 + x_5 + x_9 = \frac{a}{2}$$

$$x_1 - \frac{2}{a}U : x_2 - \frac{2}{a}V : x_3 - \frac{2}{a}W = x_4 - \frac{2}{a}U' : x_5 - \frac{2}{a}V' :$$

$$x_6 - \frac{2}{a}W' = x_7 - \frac{2}{a}U^4 : x_8 - \frac{2}{a}V'' : x_9 - \frac{2}{a}V''' \dots (2)$$

$$x_1 - \frac{2}{a}U + x_5 - \frac{2}{a}V' + x_9 - \frac{2}{a}W'' = 0 \quad \dots\dots (3)$$

(3) より $x_1x_5 + x_1x_9 + x_5x_9 = x_2x_4 + x_3x_7 + x_6x_8$

$$\therefore \frac{2}{a}e_0 = \begin{pmatrix} x_5x_9 - x_6x_8 & x_3x_8 - x_2x_9 & x_2x_6 - x_3x_5 \\ x_6x_7 - x_4x_9 & x_1x_9 - x_3x_7 & x_3x_4 - x_1x_6 \\ x_4x_8 - x_5x_7 & x_2x_7 - x_1x_8 & x_1x_5 - x_2x_4 \end{pmatrix}$$

また (1) より,

$$\frac{x_2(x_1 + x_5 + x_9) + x_2x_9 - x_3x_8}{x_5(x_1 + x_5 + x_9) + x_3x_7 - x_1x_9} = \frac{x_3(x_1 + x_5 + x_9) + x_3x_5 - x_2x_6}{x_6(x_1 + x_5 + x_9) + x_1x_6 - x_3x_4}$$

$$\therefore x_2x_6 - x_3x_5 = -\frac{1}{x_1 + x_5 + x_9} (x_2(x_1x_6 - x_3x_4) + x_6(x_2x_9 - x_3x_8) - x_3(x_3x_7 - x_1x_9) - x_5(x_3x_5 - x_2x_6)) = -x_2x_6 + x_3x_5$$

$$\therefore x_2x_6 = x_3x_5, \dots\dots$$

よって, $e_0 = 0$ となる.

〔定理 3〕 idempotent 元 e , の対角元の和が 2 であるならば,

$$x_1 + x_5 + x_9 = a$$

$$x_1x_5 + x_5x_9 + x_9x_1 - x_2x_4 - x_3x_7 - x_6x_8 = \frac{a^2}{4}$$

が成立する. 逆に (4) が成立するならば,

$$X^3 = aX^2 - \frac{a^2}{4}X$$

が成立する.

〔定理 4〕 (4) が成立するならば, X, X^2 に対応する点 P_1, P_2 は x, y の如何に関せず定直線上にある.

〔証明〕

$$e_0 \rightarrow \left(\frac{ax_1 - 2U}{ax_7 - 2U''}, \frac{ax_4 - 2U'}{ax_7 - 2U''} \right)$$

$$e_1 \rightarrow \left(\frac{(x_1x_5 + x_1x_9 - x_2x_4)x + (x_2x_9 - x_3x_8)y + x_3x_5 - x_2x_6}{(x_5x_7 - x_4x_8)x + (x_1x_8 - x_2x_7)y + x_1x_5 + x_1x_9 - x_2x_4}, \frac{(x_4x_9 - x_6x_7)x + (x_1x_5 + x_5x_9)y + x_1x_6 - x_3x_4}{(x_5x_7 - x_4x_8)x + (x_1x_8 - x_2x_7)y + x_1x_5 + x_1x_9 - x_2x_4} \right)$$

ここで

$$\frac{(ax_7 - 2U'')(x_1x_5 + x_1x_9 - x_2x_4) - (ax_1 - 2U)(x_5x_7 - x_4x_8)}{(ax_7 - 2U'')(x_4x_9 - x_6x_7) - (ax_4 - 2U')(x_5x_7 - x_4x_8)}$$

$$= \frac{(ax_7 - 2U'')(x_2x_9 - x_3x_8) - (ax_1 - 2U)(x_1x_8 - x_2x_7)}{(ax_7 - 2U'')(x_1x_5 + x_5x_9) - (ax_4 - 2U')(x_1x_8 - x_2x_7)}$$

$$= \frac{(ax_7 - 2U'')(x_3x_5 - x_2x_6) - (ax_1 - 2U)(x_1x_9 + x_5x_9 - x_6x_8)}{(ax_7 - 2U'')(x_1x_6 - x_3x_4) - (ax_4 - 2U')(x_1x_9 + x_5x_9 - x_6x_8)}$$

が成立する.

〔定理 5〕 $X^3 = aX^2 - \frac{a^2}{4}X$ ($a \neq 0$)

なるとき, X, X^2 に対応する点を P_1, P_2 とする.

$$P_1(\xi_1, \eta_1), P_2(\xi_2, \eta_2)$$

$(\xi_1, 0)$ と P_2 を結ぶ直線が摩擦軸に平行でなく, また定点を通る条件は,

$$\frac{x_1V' - x_2U'}{x_1x_5 - x_2x_4} = \frac{x_7V - x_8U}{x_5x_7 - x_4x_8}$$

$$\frac{x_2W' - x_3V'}{x_2x_6 - x_3x_5} = \frac{x_3W' - x_9V'}{x_6x_8 - x_5x_9}$$

$$\frac{x_3U' - x_1W'}{x_3x_4 - x_1x_6} = \frac{x_9U' - x_3W'}{x_4x_9 - x_6x_7}$$

で, 定点は,

$$\left(\frac{(x_1V - x_2U)(x_7V' - x_8U')}{(xV' - x_2U')(x_7V'' - x_8U'')}, \frac{x_7V' - x_8U'}{x_7V'' - x_8U''} \right)$$

である。

〔証明〕 $(\xi, 0)$ と P_2 を結ぶ直線の方程式より

$$\begin{aligned} x_7 U' \xi - (x_7 U - x_1 U'') \eta &= x_1 U' \\ (x_7 V' + x_8 U') \xi - (x_8 U + x_7 V - x_1 V'' - x_2 U'') \eta &= x_1 V' + x_2 U' \\ x_8 V' \xi - (x_8 V - x_2 V'') \eta &= x_2 V' \\ (x_9 U' + x_7 W') \xi - (x_9 U + x_7 W - x_1 W'' - x_3 U'') \eta &= x_1 W' + x_3 U' \\ (x_9 U' + x_8 W') \xi - (x_9 V + x_8 W - x_3 V'' - x_2 W'') \eta &= x_2 W' + x_3 V' \\ x_9 W' \xi - (x_9 W - x_3 W'') \eta &= x_3 W' \end{aligned}$$

よって

$$\frac{X_1}{x_7} = \frac{x_2}{x_8} = \frac{x_3}{x_9} = \frac{U' \xi - U \eta}{U' - U'' \mu} = \frac{V' \xi - V \eta}{V' - V'' \eta} = \frac{W' \xi - W \eta}{W' - W'' \eta} \dots\dots (6)$$

または

$$\begin{aligned} \frac{x_1}{U' \xi - U \eta} &= \frac{x_2}{V' \xi - V \eta} = \frac{x_3}{W' \xi - W \eta} = \frac{x_7}{U' - U'' \eta} \\ &= \frac{x_8}{V' - V'' \eta} = \frac{x_9}{W' - W'' \eta} \dots\dots (7) \end{aligned}$$

が成立する。(6) より $\xi_1 = k_1$ となり, $\frac{2}{a} X$ は idempotent となる。

(7) より,

$$\eta = \frac{x_7 V' - x_8 U'}{x_7 V'' - x_8 U''} = \frac{x_8 W' - x_9 V'}{x_8 W'' - x_9 V''} = \frac{x_9 U' - x_7 W'}{x_9 U'' - x_7 W''} \dots\dots (8)$$

$$\frac{\xi}{\eta} = \frac{x_1 V - x_2 U}{x_2 V' - x_2 U'} = \frac{x_2 W - x_3 V}{x_2 W' - x_3 V'} = \frac{x_3 U - x_1 W}{x_3 U' - x_1 W'} \dots (9)$$

ここに (8), (9) の等式は $|X| = 0$ のとき常に成立する。

〔定理 6〕 $(x, -y)$ が $(\xi_1, 0)$ と P_2 を結ぶ直線上にある条件は,

$$x_5 = x_6 = x_7 = x_8 = 0, \quad x_1 = x_9, \quad \text{である。}$$

〔証明〕

$$\frac{xU' + yV' + W'}{xU'' + yV'' + W''} \xi - \left(\frac{xU + yV + W}{xU'' + xV'' + W''} - \frac{x_1x + x_2y + x_3}{x_7x + x_8y + x_9} \right) \eta$$

$$= \frac{(x_1x + x_2y + x_3)(xU' + yV' + W')}{(x_7x + x_8y + x_9)(xU'' + yV'' + W'')}$$

に $\xi = x, \eta = -y$ を代入して,

$$\left. \begin{aligned} x_7U' &= 0 \\ x_8U' + x_7V' + x_7U - x_1U'' &= 0 \\ x_8V' + x_8U + x_7V - x_2U'' - x_1V'' &= 0 \\ x_8V - x_2V'' &= 0 \\ x_9U' + x_7W' - x_1U' &= 0 \\ x_9V' + x_8W' + x_9U + x_7W - x_3U'' - x_1W'' - x_1V' - x_2U' &= 0 \\ x_9V + x_8W - x_3V'' - x_2W'' - x_2V' &= 0 \\ x_9W' - x_3U' - x_1W' &= 0 \\ x_9W - x_3W'' - x_2W' - x_3V' &= 0 \\ -x_3W' &= 0 \end{aligned} \right\} (10)$$

が成立する。よって,

$$(x_9 + x_7)(U' + W') = (x_1x_3)(U' + W')$$

$$\therefore U' + W' = 0 \cdots \cdots (11) \quad \text{か} \quad \text{または} \quad x_9 + x_7 = x_1 + x_3 \cdots \cdots (12)$$

(11) の場合, $U' = W' = 0$ ならば $E - e_1$ が対角線の和が 1 なる idempotent 元であるから,

$$\left\{ \begin{aligned} \frac{x_6x_7 - x_4x_9}{x_4} &= \frac{x_3x_4 - x_1x_6}{x_6}, & \frac{x_5x_9 - x_6x_8}{x_4} &= \frac{x_2x_6 - x_3x_5}{x_6}, \\ \frac{x_4x_8 - x_5x_7}{x_4} &= \frac{x_1x_5 - x_2x_4}{x_6} & \cdots \cdots & (13) \end{aligned} \right.$$

$$\left\{ \begin{aligned} x_5 - \frac{2}{a}V' &= 0 & \cdots \cdots & (14) \end{aligned} \right.$$

よって, $x_5 \neq 0, x_4 = x_6 = 0, x_1 + x_9 = x_3$

これは不成立.

$W' = U' = 0$ の不成立のときは,

$$x_7W' = (x_1 - x_9)U', \quad (x_9 - x_1)W' = x_3U'$$

より $x_1 = x_9$, が成立する.

$U' + W' = 0, U \neq 0$ の場合は,

$$X = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & x_5 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \quad \dots \dots (15)$$

となる.

$x_9 + x_7 = x_1 + x_3$, の場合は $x_1 = x_9$ より $x_3 = x_7 = 0$ が成立する. よって $|X| = 0$ と (10) より (x5) と定理の結果を得る.

[定理 7] 行列 $e_2 = \frac{4}{a^2}X^2 - \frac{4}{a}X + E$ は idempotent である. 行列の対角元の和は 1 である.

$$X^2 - aX + \frac{a^2}{4}E = \begin{pmatrix} x_5x_9 - x_6x_8 & x_3x_8 - x_2x_9 & x_2x_6 - x_3x_5 \\ x_6x_7 - x_4x_9 & x_1x_9 - x_3x_7 & x_3x_4 - x_1x_6 \\ x_4x_8 - x_5x_7 & x_2x_7 - x_1x_8 & x_1x_5 - x_2x_4 \end{pmatrix}$$

e, e_2 , に対応する点と (x, y) は同一直線上にある.

[証明] $\frac{1}{a}X - \frac{4}{a^2}X^2$ の対角元の和は 2 である.

$$\therefore U + V' + W'' = \frac{a^2}{2}$$

$$\therefore \frac{4}{a^2}(U + U' + W'') - \frac{4}{a}a + 3 = 1$$

[定理 8] 行列 e_2 に対応する点を R とする. R と (x, y) を結ぶ直線と ξ 軸との交点が, $(\xi_1, 0)$ である条件は,

$$x_3 = x_5 = x_7 = 0, \quad x_1 = x_9$$

である.

[定理 9] R と (x, y) を結ぶ直線と ξ 軸との交点が, $(-\xi, 0)$ である場合はない.

[証明] 前定理と同じようにすれば $x_1 = x_5 = x_7 = 0, x_1 + x_9 = 0$ となる.

$$\therefore a = 0$$

[定理 10] 行列 e_0, e_1 に対応する点を, それぞれ P, Q とするならば,

$$\frac{\overline{P_1P}}{P_1Q} : \frac{\overline{P_2P}}{P_2Q} = 2 : a^2$$

もっと一般に

$$\frac{\overline{P_n P}}{\overline{P_n Q}} : \frac{\overline{P_{n+1} P}}{\overline{P_{n+1} Q}} = 2 : a^2$$

が成立する。ここに、 P_n, P_{n+1} は行列 X_n, X_{n+1} に対応する点である。

〔証明〕 (4) より次式が成立するからである。

$$\begin{aligned} \frac{a}{2} &= \frac{a(x_7 V - x_1 V'') + 2(UV'' - U''V)}{a(x_2 x_7 - x_1 x_8) + 2(x_8 U - x_2 U'')} \\ &= \frac{a(x_7 W - x_1 W'') + 2(UW'' - U''W)}{a(x_3 x_7 - x_1 x_9) + 2(x_9 U - x_3 U'')} \end{aligned}$$

〔定理 11〕 $X+E$ に対応する点を S とするならば、 S は定直線上にある。

〔証明〕 e_0 と e_2 に対応する点を結ぶ直線上に S が存在する。

〔定理 12〕 $\overline{SP_2}$ と $\overline{P_1 R}$ と、 $\overline{P_0 P}$ は一点で交わる。この点は行列 $E - \frac{2}{a}X + \frac{4}{a^2}X^2$ に対応する点である。ことに P_0 は (x, y) である。

〔定理 13〕

$$\frac{\overline{QP_{n+1}}}{\overline{QP}} : \frac{\overline{P_n P_{n+1}}}{\overline{P_n P}} = 2 : a$$

〔定理 14〕 $X = Y_1 + \frac{a}{2}E$ とするならば

$$Y_1^2 \left(Y_1 + \frac{a}{2}E \right) = 0$$

$X = Y_2 + \frac{a}{4}E$ とするならば

$$Y_2^2 \left(Y_2 - \frac{1}{4}aE \right) = \frac{a^2}{16} \left(Y_2 - \frac{1}{4}aE \right)$$

となる。